

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

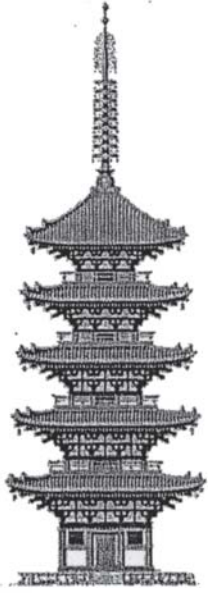
皆さん、こんにちは。今日はご  
祥当。お大師様の命日です。最澄、  
空海後の仏教がテーマの今年のか  
わら版。今月は親鸞の浄土真宗に  
ついてです。

## ★六角堂百日参籠

親鸞は一一七三年、京都伏見の  
一角を所領とする日野有範の子と  
して誕生。藤原北家の系譜です。  
一一八一年、八歳の時に慈円の  
下で出家。比叡山に入って二十年  
間修行します。その間、洛中では  
法然の専修念仏が広まっていまし  
た。

古い体質の旧仏教に限界を感じ  
ていた親鸞。一二〇一年、聖徳太  
子縁(ゆかり)の六角堂に百日参  
籠します。

参籠中のある夜、夢に現れた観  
音菩薩(聖徳太子の化身)のお告  
げに従い、夜明けとともに東山吉



水にある法然の草案を訪ね、その  
まま弟子入りします。親鸞二十八  
歳、法然六十九歳の時でした。

## ★恵信尼(えしんに)

法然に認められつつあった矢先  
の一二〇七年、建永の法難に遭い  
ます。



親鸞(右)と  
恵信尼(上)

から弾圧を受け、法然は四国に、  
親鸞は越後に流罪となります。親  
鸞三十四歳の時です(詳細は先月

人々に  
急速に広  
まってい  
た法然の  
専修念仏  
が旧仏教  
界や朝廷

号ご参照)。

親鸞は、流刑先の越後高田の地  
主の娘と結婚。妻も出家して恵信  
尼と名乗ります。

一二二一年、三十八歳の親鸞は  
罪を許され、妻子とともに東国へ  
の移住を決意。

流浪の末、常陸国稲田(現在の  
茨城県笠間市)に落ち着き、以後  
二十年間をこの地で過ごします。

## ★他力本願

一二二四年、親鸞は教行信証  
(きょうぎょうしんしんしょう)を著  
し、浄土真宗を立宗。五十二歳の  
時です。

法然が「念仏を称えることで阿  
弥陀仏に救われる」と説いたのに  
対し、親鸞は「既に阿弥陀仏に救  
われていることへの報恩の念仏を  
称える」と主張。

この考えは浄土宗の根本經典で  
ある無量寿経の解釈から生まれま  
した。

無量寿経には、阿弥陀仏が仏に  
なる前の法蔵菩薩が四十八の願を  
かけ、それが達成されないうちは  
仏にならないと誓ったと記されて  
いました。

阿弥陀仏は既に仏であることか  
ら、法蔵菩薩の願は成就している  
こととなります。そして、その願  
の中に「あらゆる衆生が浄土に往  
生する」とあったことから、親鸞  
は「人々は既に救われている」と  
考えたのです。

救われるために念じるのではなく、  
既に救われていることへの報恩感

謝のために南無阿弥陀仏を称える。  
これが親鸞の他力本願の考えです。

## ★非僧非俗、悪人正機説

親鸞は、自分は僧でも俗人でも  
ないとして非僧非俗を宣言。言わ  
ば在家信者の元祖です。

弟子の唯円が著した歎異抄に記  
された親鸞の言葉。「善人なをも  
て往生をとぐ、いはんや悪人を  
や」。衆生は悟りからほど遠い悪  
人だが、その悪人こそ救われると  
する悪人正機説です。

こうした教えに共鳴し、常陸国  
を中心に関東に多くの門弟が育ち、  
念仏集団が広がりました。

事態を重く見た鎌倉幕府は一二  
三四年、専修念仏を禁止。  
翌一二三五年、親鸞は関東を去  
り、娘の覚信尼を伴って京都に戻  
ります。六十二歳の時です。

東山大谷に居を構え、息子たち  
(善鸞、明信、有房)を東国で活  
動させ、教書の執筆に注力した晩  
年。充実した時を過ごした親鸞は、  
一二六二年、八十九歳で亡くなり  
ました。

親鸞の廟は東山大谷に建てられ、  
のちの本願寺へと発展していきま  
す。

## ★四月 一遍 時宗

さて、法然、親鸞に続いて世に  
出たのは踊り念仏で知られる一遍。  
来月は一遍の時宗についてです。  
乞う期待。

